

まえがき

バハイ信教は世界中に迅速にひろまってきました。同時にその初期の歴史と信教のために命をささげた人びとについて知りたいと願う人たちの数も増えてきています。バブの悲劇的な人生とその弟子たちの物語は、全世界のバハイに深い感銘と勇気をあたえる源泉となってきました。今回、『夜明けを告げる人びと』の全文が邦訳されたことで、より多くの日本人も、そのおどろくべき物語にふれ、大いに鼓舞されるようになるでありません。

この書の著者ナビルは、バブとその弟子たちが激しい迫害を受け、殺害されていた時代に生きた人です。かれは、当時その場において、もろもろの事件を目撃した信頼できる人たちから情報を得ることができました。また、大殺戮に巻き込まれながらも生き残った人たちからも直接話を聞くことができました。

ナビルは、もろもろの事件を詳細に描写していますが、同時に、十九世紀初期のペルシャの陰惨な社会状況にも言及し、その国が当時地上でもっとも墮落したところで、そこから神の使者が現われるようになっていたことを明らかにしています。

ペルシャはかつて偉大な国王たちのもとで、世界に類を見ないほどの文明を生み出し、有名な詩人たちを輩出したのですが、十九世紀には見る影もなく落ちぶれてしまいました。僧侶階級以外の人びとの教育は不要であるとみなされ、女性の境遇も悲惨で、家具同様に扱われていました。人びとの間には無知と迷信がはびこり、かれらは僧侶の意のままに動かされていました。国王は独裁的で、一般国民を軽蔑し、愛顧をあたえたのは自分の息子や親族だけでした。国王の血を引く王子の数はおびただしく、官職はすべて、かれらで占められていた時期もあったほどです。大半の王子は墮落し、残酷で、何事にも極端に走り、人民に注目したのは税金徴収のときだけでした。かれらは、僧侶階級と共に、裁判なしにだれにでも思いのまま死刑の宣告をすることができたのです。

このように腐敗し、暗黒化した社会に、希望の知らせをもたらす人たちが現われました。シェイキ・アーマドとセイエド・カゼムで、この二人は、聖典を研究し、その中で約束されている偉大な人物が神から下される時期が迫っており、その人物は、ペルシャの国民と全人類を平和と安寧の道に導いてくれると説きはじめたのです。

ナビルがこの物語を書き始めたのは一八八八年で、アッカでバハオラに仕えている

ときでした。バハオラは、ナビルをペルシャに送り、そこで大業を推進し、迫害されている信者たちを励ますように指示しました。一八九二年にバハオラがこの世を去ったとき、ナビルは嘆きの重圧に耐え切れず海に身を投げました。その遺体はアッカ市近郊の海岸に打ち上げられました。

バハイ信教の守護者、ショーギ・エフェンディは、ナビルが記録した原稿を選別し、英語に翻訳して見事な本に作り上げました。現代と未来の世代は、このおどろくべき大作を残された守護者に深い感謝の念をいだきつづけるであります。

翻訳にあたって、不明瞭な箇所を解明して下さったジュナビ・コールドウェル氏、訳文を原文と照らし合わせて下さったトライバー・なお子氏、訳文を校正して下さった鹿兒島千里氏と井原昌代氏、そのほか助言や励ましを下さった方々に深く感謝する次第です。さらに、十八章「タブリズでのバブの取調べ」と二十三章「バブの殉教」は、ザファー・モグベル氏の翻訳を大いに参考にさせていただいたこと、また、この「まえがき」も、ゼナ・ソラブジー氏著「ナビルの物語」の序文を参考にさせていただいたことを記して、深く感謝の意を表したいと思います。

コールドウェル・本子

目次

第一章 シェイキ・アーマドの使命

バーレーンからイラクへ出発 ナジャフとカルベラ訪問 シラズへの旅
ヤズド滞在（ファト・アリ国王と交信 アブドル・ヴァハブとの関わり マムード
の逸話 セイエド・カゼムの到着） マシュハドへの巡礼 勝利のテヘラン
入り ケルマンシャーに出発 カルベラにもどる メッカとメジナへの旅
と死

第二章 セイエド・カゼムの使命

モハメッド・バゲルとの関わり 約束の御方への言及 ハサン・ゾヌジの逸
話（カゼムのバブ訪問 カゼムの講話にバブ出席 バブのエマム・ホセイン廟訪
問 ゾヌジのシラズとマーカー訪問 カルベラでのゾヌジとバハオラの出会い）
カゼムの著作にある約束の御方への言及 カルベラの包囲攻撃 カゼムの不
実な弟子たちへの言及 アブトラブの話 カゼムとアラブ人羊飼いの出会い
セイエド・カゼムの死

第三章 バブの使命の宣言

モラ・ホセインのカルベラ到着 六十年（一八四四年）の意義 モラ・ホセ
インのナジャフとブシェル訪問 シラズでのモラ・ホセインとバブの会見
モラ・アリと仲間のシラズ到着 ゴッドスのシラズ到着 バブの若き日（生
誕 初等教育 結婚 ブシェル在住） 生ける者の文字 タヘレへについ
て バラ・サリという言葉の説明 モラ・ホセインへのバブの指示 モラ・
アリのシラズ出発 アブドル・ヴァハブの話 モラ・アリの苦難 バブの
生ける者の文字への別れの言葉 バブのモラ・ホセインへの別れの言葉

第四章 モラ・ホセインのテヘランへの旅

モラ・ホセインのイスファハン訪問（モハメッド・バゲルの弟子との関わり 小
麦のふるい手の話 サディクの改宗） モラ・ホセインのカシャンとクム滞在
テヘランでの体験（モハメッド・クラサニとの関わり モラ・モハメッドとの出
会いとバハオラへのメッセージ）

第五章 バハオラのマザンデランへの旅

ミルザ・ボゾルグについて モラ・ホセインのテヘラン到着以前のバハオラのヌール訪問（モハメッド・タギとの出会い モハメッド・タギが見た二つの夢）モラ・ホセインのテヘラン到着以後のバハオラのヌール訪問（叔父アジズとの関係 モラ・モハメッドとの関わり 修行僧との会話 ヌール訪問の成果）バハオラに関する父上の夢 総理大臣アガシとの関係

第六章 モラ・ホセインのコラサンへの旅

生ける者の文字に宛てたバブの指示 コラサンの最初の信者たち バブに宛てたモラ・ホセインの手紙

第七章 バブのメッカとメジナへの巡礼

ハサン・シラジの話 ペルジャン・バヤンで言及された困難な船旅 ジャデ到着とメッカに向かう途中での出来事 バブのカーベ神殿めぐり モヒートへの宣言 メッカの州長官へのメッセージとハジ・ニヤズの話 メジナ訪問

第八章 巡礼後のバブのシラズ滞在

ブシェルにもどりゴッドスに別れを告げる ゴッドスのバブの伯父訪問 ゴッドスとサディクの出会い ゴッドスとサディクの苦難（知事のサディクへの尋問 目撃者が語った迫害の状況）シラズにもどったバブ（バブを護衛した指揮官の話 バブと知事の会見 ヴァキル寺院でのバブの宣言）シラズで信者となった人たち カルベラの信者たちへのバブの通信 カーンガヴァルに来てモラ・ホセインと会った信者たち 信者の一団とモラ・ホセインのイスファハンへの出発 モラ・ホセインのシラズへの出発 シラズに到着した六名の信者 カリムの話 カリムに会ったナビル

第九章 巡礼後のバブのシラズ滞在（つづき）

モラ・ホセインのコラサンへの出発 ヤヒヤとバブの会見 モラ・モハメッド・アリの改宗 ゴッドスのケルマン、テヘラン、マザンデラン訪問（ジャヴァドとの関わり テヘラン訪問 バルフォルージュ滞在）モラ・サデクのヤズド訪問（アーマド・アズガンディとの関わり ヤズドのモスクでの体験）アルデビリとほかの信者たちの苦難 ジャヴァド・カルベラについて ソルタンの話 二年目のノウ・ルーズ バブの母上と妻について ホセイン・カーンの活動（密使団長の報告 アブドル・ハミド・カーンへの命令）バブの逮捕と疫病の発生（ホセイン・カーンの逃亡 アブドル・ハミド・カーンの息子の回復 バブの釈放）バブの家族との別れとシラズへの出発

第十章 イスファハンでのバブ

マヌチェール・カーンへの手紙 僧侶の長バブを歓迎（バブに対する住民の敬意 バブに対する僧侶の長の尊敬 ヴァル・アスル章についてのバブの解説 バブとマヌチェール・カーンの会見） ハジ・ミルザ・アガシの恐れ バブのマヌチェール・カーン訪問 モラ・タギ・ハラティについて バブのために開かれたミルザ・エブラヒムによる晩餐会 イスファハンの僧侶が出したバブの死刑宣告 マヌチェール・カーンのバブの救助計画 信者たちバブと会う バブのマヌチェール・カーンへの死期の予告 マヌチェール・カーンの晩年 信者に分散を指示 ゴルジン・カーンの国王への手紙 バブのカシヤンへの出発

第十一章 バブのカシヤン滞在

ジャニの夢 バブのジャニ宅での三日間（アブドル・バキについて メヘディとバブの会見）

第十二章 バブのカシヤンからタブリーズへの旅

クムに接近 クムルッド村に滞在 ケナル・ゲルド要塞に到着 コライン村に滞在（信者たち到着 バハオラからの贈り物とメッセージに喜悅したバブ 旅中の出来事 国王からバブに宛てた手紙 総理大臣アガシの恐怖感と陰謀） タブリーズへの旅の最終段階（シヤ・デハン村に信者集合 ホッジャトによるバブの救出計画 バブの護衛隊との別れ バブを歓迎した若者の信者） バブのタブリーズ到着（歓呼でバブを迎えたタブリーズ住民 タギ・ミラニとアリ・アスカルに会見したバブ アリ・アスカルの話）

第十三章 バブのマーカー砦監禁

ホセイン・ヤズドの話 マーカーの状況と住民の特質 住民のバブへの愛着 ゾヌジの到着とバブのかれへのメッセージ 看守アリ・カーンの夢 アリ・カーンの態度の急変 ペルジャン・バヤンについて バブの弟子たちのマーカー訪問 マーカーでの出来事 バブの宣言前に見た夢 国王と政府に降りかかった災難 マシュハドからマーカーへ巡礼に出たモラ・ホセイン（出発の動機 テヘラン訪問 マーカー到着とアリ・カーンの夢） モラ・ホセインに宛てたバブの言葉 アリ・カーンに対する非難とバブのチェリグへの移動 バブのモラ・ホセインへの別れの言葉

第十四章 モラ・ホセインのマザンデランへの旅

テヘランへの出発　バルフォーシュのゴッドス宅に滞在　総理大臣とモラ・ホセインの行動の違い　ゴッドスのモラ・ホセインへの指示　モラ・ホセインのサイドル・オラマーとの会見　マシュハドに向けて出発

第十五章 タヘレのカルベラからコラサンへの旅

バハオラへの言及　バブの信者たちへの書簡　バブの呼びかけに対するタヘレの応答（カルベラでの活動　バグダッドでの活動　ケルマンシャーとハマダンに滞在　ガズビンでの監禁—モラ・モハメッドへの応答、モラ・アブドラの到着とモラ・タギの殺害、無実者たちの投獄とバハオラの援助と監禁、国王への直訴、ペルシャでの最初の殉教者、総理大臣アガシの態度とサドル・アルデビリの介入、ガズビンでの虐殺、テヘランに与えた虐殺の影響　バハオラのタヘレ救出—タヘレをテヘランから移動、タヘレのガズビン出発の影響、バブとバハオラに対するタヘレの態度　タヘレのコラサンへの出発—アガ・カリムに与えたバハオラの指示、タヘレのテヘラン出発）

第十六章 バダシュトの大会

バハオラのテヘラン出発　マシュハドでの暴動　ゴッドスのマザンデランへの出発　シャー・ルードでのバハオラとゴッドスの会見　バダシュト到着（バダシュト大会の意義　アブドラブの話　信者間の意見の相違　バハオラにより和解成立　バダシュト出発）　バハオラが語ったニヤラ村の出来事　その結末

第十七章 バブのチェリグ牢獄への監禁

チェリグの住民のバブに対する態度　バブの従者への指示　バブのメッセージを受け入れた僧侶と政府の高官（ミルザ・モハメッド・アリとその弟　ミルザ・アサドラ　インドの修道層）　信者たちのチェリグからの分散　モハメッド・アリ・ゾヌジに関わる出来事

第十八章 タブリズでのバブの取り調べ

ウルミエ訪問　タブリズ到着　僧侶によるバブの取り調べ　バブに対する侮辱行為　チェリグにもどり総理大臣に書簡を送付

第十九章 マザンデランの動乱

モラ・ホセインのマシュハド出発　モハメッド国王の死　サイドル・オラマーのバルフォーシュ住民への呼びかけ　モラ・ホセインと仲間への攻撃

モラ・ホセインの反撃　フォルギの話　バルフォルージュ住民の降伏　仲間たちの祈りの呼びかけ再開　隊商宿からの攻撃　バルフォルージュの名士たちの嘆願　コスローへの指示　マザンデラン森での出来事　シェイキ・タバルシ聖堂への到着　聖堂の管理人の夢　カディ・カラ村民の攻撃と仲間への反撃　バハオラのシェイキ・タバルシ訪問　ゴッドスの釈放　黒旗について　ゴッドスのモハメッド・タギ宅での監禁　シェイキ・タバルシに到着したゴッドス　フォルギの話　シェイキ・タバルシ内のゴッドスの行動　サイドル・オラマーの国王への訴え　アブドラ・カーンの軍隊の駐留　シェイキ・タバルシからの最初の突撃　メヘディ・ゴリ王子のモラ・ホセインへのメッセージ　シェイキ・タバルシからの第二の突撃　ゴッドスの負傷　バハオラのシェイキ・タバルシ参加の試み　バハオラの使命宣言前の活動について

第二十章　マザンデランの動乱（つづき）

第三の突撃とモラ・ホセインの負傷　モラ・ホセインの臨終　モラ・ホセインの埋葬とかれの業績　ゴッドスの仲間たちへの警告　モタヴァリの裏切り　アッバス・ゴリの攻撃　第四の攻撃と敵の完敗　テヘランから大砲補充　仲間たちの苦難　ゴッドスの仲間たちへの激励　第五の突撃とゴリ・カーンの死　深まる仲間たちの苦難　ゴッドスの宣言　第六の最後の突撃　王子の参謀との相談　アガ・カリムの話　仲間数人砦を捨て捕虜となる　信者たちを守るといふ王子の宣誓　仲間たちの砦の放棄　仲間たち捕虜となる　大虐殺　仲間三人の運命　ゴッドスの殉教　殉教者のリスト

第二十一章　テヘランの七人の殉教者

マザンデランの災難がバブに与えた影響　バブのサイヤへのタバルシ廟訪問指示　サイヤのテヘラン訪問とバハオラとの会見　ナビルの若き日の話　七人の殉教者の処刑（ハジ・ミルザ・セイエド・アリ　ミルザ・ゴルバン・アリ　ハジ・モラ・エスマイル・ゴミ　セイエド・ホセイン・トルシジ　ハジ・モハメッド・タギ・ケルマニ　セイエド・モルタダ　モハメッド・ホセイン・マラゲ）　バハオラの話　七人の殉教者の埋葬

第二十二章　ナイリズの動乱

ヴァヒドのテヘランとヤズドへの旅　ヤズドで新年を祝う　ナヴァーヴの活動　騒動と敵の敗走　ヤズド住民へのヴァヒドの宣言　ナリンの砦の軍勢を撃退　ヴァヒドのヤズド住民への宣布　ヴァヒドの突撃命令　ヴァヒド

の妻の父宅への移動　ヴァヒドの召使いハサンへの指示　ヴァヒドのナイリズへの出発　ヴァヒドのナイリズ住民への呼びかけ　カジェ砦からの最初の突撃　カジェ砦からの第二の突撃　砦内の仕事分担　ザイノルのメッセージ途中で奪われる　ザイノルの王子へのさらなる援助要請　カジェ砦からの第三の突撃　殉教者の名前　敵の平和を求める宣誓書　敵の招待に応えたヴァヒド　ヴァヒドの仲間たちへのメッセージとアベドの裏切り　仲間たち捕虜となる　ヴァヒドの殉教　ヴァヒドの仲間たちの運命

第二十三章　バブの殉教

総理大臣のバブ処刑の動機　総理大臣のハムゼ・メルザへの命令　所有品を整理したバブ　バブのタブリズ到着　総理大臣の命令　バブの兵舎への監禁　セイエド・ホセインの話　バブの執行官への警告　モハメッド・アリの信仰取り消し拒否　バブの死刑執行令状　サム・カーンのバブへの要請　バブの奇跡的脱出　執行官の辞任　サム・カーンの辞任　バブの再度の処刑　アスカルの話　バブの遺体のテヘランへの移動　アガ・カーンについて　バブの殉教の影響

第二十四章　ザンジャンの動乱

バブの苦難について　改宗前のホッジヤトの活動　ホッジヤトのバビへの改宗　非難を受けテヘランに召されたホッジヤト　バブのホッジヤトへのメッセージ　ホッジヤトに対する再度の非難とかれのテヘランへの移動　バブのザンジャンへの到着とタブリズへの出発　ホッジヤトのテヘランでの監禁　ホッジヤトのザンジャンへの脱出　ホッジヤトと仲間への敵の攻撃　敵の再攻撃準備　アリ・マルダン・カーンの砦に入ったホッジヤト　名士による攻撃　ホッジヤトの仲間たちへの忠告　サドロッド・タオレが総理大臣から受けた砦攻囲命令　仲間たちの苦難と努力　村の若い女性ザイナブの勇敢な行動　仲間たちの祈願の効果　ホッジヤトの国王への嘆願書　嘆願書をたずさえた使者の逮捕と増援隊の派遣　バブの殉教が仲間たちに与えた影響　司令官の率いる大連隊の派遣　ホッジヤトとアジズ・カーンの会見　砦への猛攻撃　総理大臣の司令官への警告　敵の合同軍隊の攻撃　モヒセンの死　砦内の婚礼の祝い　アブドル・バキの息子五人の死　オンム・アシュラフの勇敢な行動　女性たちによる援助　司令官の裏切り計画　ホッジヤトの仲間たちへの忠告　敵の攻撃再開　ホッジヤトの負傷　砦の占拠と仲間たちへの影響　仲間たちへのさらなる攻撃　司令官と幕僚の協議　地下通路の建設　ホッジヤトの妻と子供の死　ホッジヤトの死と埋葬　最後の襲撃

生存者の処置方法 ホッジヤトの遺体への侮辱行為とかれの血族の運命 殉
教者の数 情報源

第二十五章 バハオラのカルベラへの旅

バハオラの話 ケルマンシャーでミルザ・アーマドとバハオラに会ったナビル
セイエド・バシールについて バハオラのカルベラへの出発理由 ナビルと
ミルザ・アーマドのテヘランへの出発 カルベラでのバハオラの活動

第二十六章 国王の暗殺未遂事件とその結果

総理大臣タギ・カーンの死 テヘランにもどったバハオラ アジムとバハオ
ラの会見 国王暗殺未遂事件 バハオラのシア・チャールへの投獄 暗殺
未遂事件を起した者たちの運命 恐怖政治 ソレイマンについて 総理大
臣の後悔 最大の枝の話 ソレイマンの殉教 タヘレの殉教 ホセイ
ン・ヤズディの殉教 バハオラのシア・チャールの話 バハオラの共謀関係
を証明する試み アジムの告白と死 マザンデランでバハオラの所有財産略
奪 ヤズドとナイリズの動乱の影響 バハオラの釈放とバグダッドへの追放